

平成17年度第1四半期における運用状況

○ 平成17年度第1四半期のポートフォリオ別の運用状況

1 被保険者ポートフォリオ

平成17年度第1四半期(4～6月)における被保険者及び待期者に係る資産の運用状況は、次表のとおり、6月末の時価総額は639億46百万円となり、第1四半期総合収益は+6億9百万円となりました。また、修正総合利回りは+0.99%となりました。

(単位:百万円、%)

資 産	平成16年度末 時価総額 ①	第1四半期保険料・ 国庫補助投下額②	計 ③(①+②)	第1四半期末 時価総額 ④	第1四半期総合収益 ④-③	修正総合 利 回 り	時価総額 構成割合
国内債券	43,270	2,130	45,401	45,687	287	0.65	71.4
国内株式	9,081	598	9,680	9,683	3	0.03	15.1
外国債券	2,192	206	2,398	2,458	60	2.64	3.8
外国株式	5,765	-32	5,732	5,999	267	4.62	9.4
短期資産	-92	220	127	120	-8	-3.63	0.2
合 計	60,216	3,122	63,338	63,946	609	0.99	100.0

(注) 1. 外国資産に係る保管手数料及び外貨流動性預金に係る為替差損益等は、「短期資産」に含みます。

2. 「短期資産」の「平成16年度末時価総額①」欄にあるマイナス表示は、平成16年度決算に基づき、被保険者危険準備金ポートフォリオへ214百万円の繰入(付利準備金繰入143百万円、調整準備金繰入71百万円)を行っているためです。

3. 単位未満を四捨五入しているため、合計欄で合わない場合があります。(以下同じ)

2 被保険者危険準備金ポートフォリオ

平成17年度第1四半期(4～6月)における被保険者及び待期者に係る付利準備金及び調整準備金の運用状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:千円、%)

区 分	資 産	平成16年度末 時価総額 ①	第1四半期繰入額 ②	計 ③(①+②)	第1四半期末 時価総額 ④	第1四半期 総合収益 ④-③	修正総合 利 回 り
付利準備金	短期資産	288,001	16	288,017	288,033	17	0.01
調整準備金	短期資産	143,372	-80	143,292	143,301	8	0.01
合 計		431,373	-64	431,309	431,334	25	0.01

3 受給権者ポートフォリオ

平成17年度第1四半期(4～6月)における受給権者に係る資産の運用状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:千円、%)

資 産	平成16年度末 時価総額 ①	第1四半期繰入額 ②	計 ③(①+②)	第1四半期末 時価総額 ④	第1四半期総合収益 ④-③	修正総合 利 回 り
国内債券	33,443	4,088	37,532	38,285	754	2.24
短期資産	-466	2,665	2,198	2,198	0	0.00
合 計	32,977	6,753	39,730	40,484	754	2.05

(注)「短期資産」の「平成16年度末時価総額①」欄にあるマイナス表示は、平成16年度決算に基き、受給権者危険準備金ポートフォリオへの繰入(2,825千円)を行っているためです。

4 受給権者危険準備金ポートフォリオ

平成17年度第1四半期(4～6月)における受給権者に係る調整準備金の運用状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:千円、%)

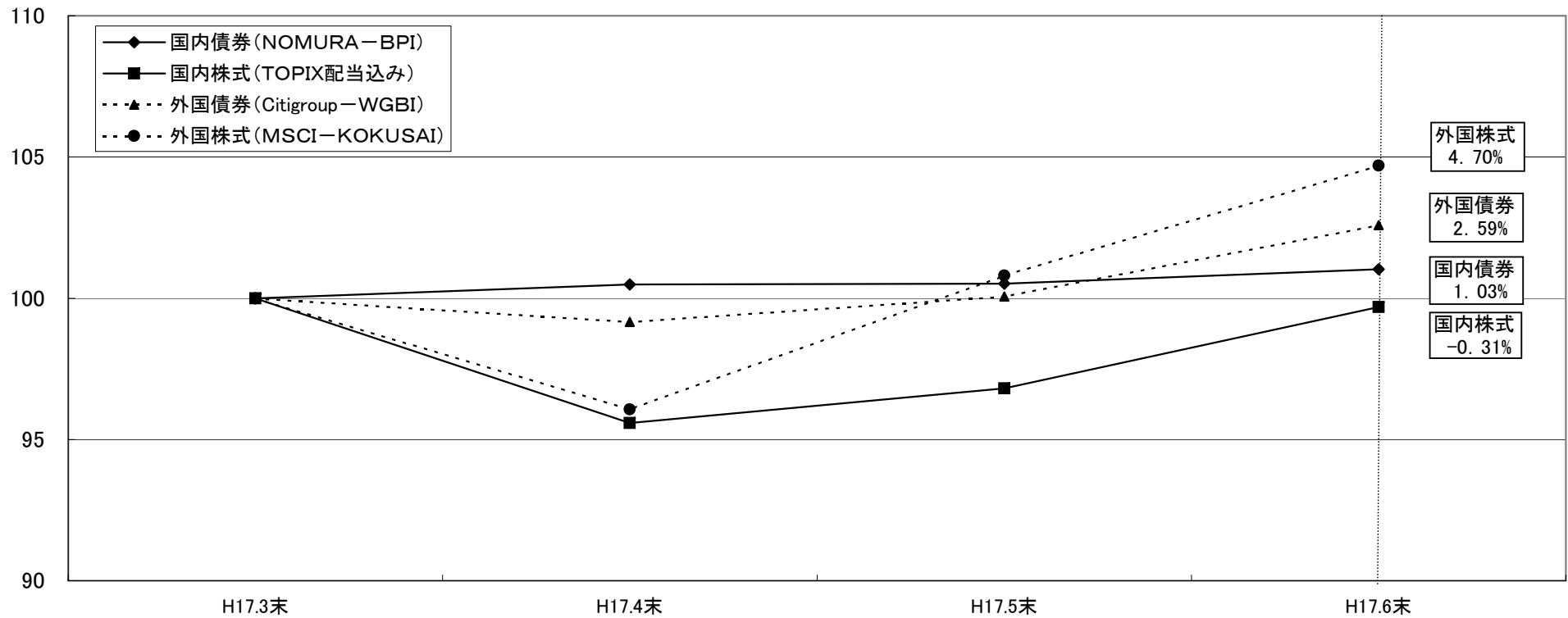
区 分	資 産	平成16年度末 時価総額 ①	第1四半期繰入額 ②	計 ③(①+②)	第1四半期末 時価総額 ④	第1四半期総合収益 ④-③	修正総合 利 回 り
調整準備金	短期資産	23,906	4,855	28,761	28,762	1	0.00

(参考)

年金資金の運用は、長期的観点から行うべきものであり、その運用状況についても、長期的に判断することが必要ですが、情報公開を徹底する観点から、四半期毎に運用状況を公開するものです。

今回の公開は、平成17年度第1四半期におけるポートフォリオ別の運用状況をお知らせするものであり、今回の運用状況によって付利額が決まるものではありません。

ベンチマーク・インデックスの推移 (H17.3末=100)



○ベンチマーク騰落率

	平成17年4月～平成17年6月
国内債券 (NOMURA-BPI総合)	1.03%
国内株式 (TOPIX配当込)	-0.31%
外国債券 (Citigroup-WGBI)	2.59%
外国株式 (MSCI-KOKUSAI)	4.70%

○運用環境

	平成17年3月末	平成17年6月末
国内債券 (新発10年国債利回り)	1.320 %	1.165 %
(NOMURA-BPI総合)	299.667 ポイント	302.746 ポイント
国内株式 (日経225)	11,668.95 円	11,584.01 円
(TOPIX配当込)	1,359.22 ポイント	1,355.02 ポイント
外国債券 (米国10年国債利回り)	4.486 %	3.917 %
(Citigroup-WGBI)	283.20 ポイント	290.53 ポイント
外国株式 (NYダウ)	10,503.76 ドル	10,274.97 ドル
(MSCI-KOKUSAI)	1,126.386 ポイント	1,179.276 ポイント

専門用語の解説

○ ポートフォリオ

もともとは、折りかばんを意味するものであったが、投資家が保有資産をさまざまな証券(銘柄)で組み合わせて保有していることから転じて、証券分析においては、種々の有価証券を組み合わせたものを意味するものとして使われている。

○ 総合収益

有価証券の売買損益や債券利息、株式配当金といった実現収益だけでなく、未収利息の増減や、評価損益の増減を加味した時価ベースの収益のこと。

○ 修正総合利回り

運用成果を測定する尺度の1つ。

総合収益率は、運用元本を簿価ベースで計算したものであるのに対し、修正総合利回りは、運用元本に時価の概念を加味した収益率のことで、総合収益率より更に時価ベースにした収益率。

算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す際に、時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として、広く普及している。

(計算式)

$$\text{修正総合利回り} = \frac{\text{実現収益} + \text{評価損益増減(当期末評価損益} - \text{前期末評価損益)} + \text{未収収益増減(当期末未収収益} - \text{前期末未収収益)}}{\text{運用元本平均残高} + \text{前期末評価損益} + \text{前期末未収収益}}$$

○ ベンチマーク

運用成果を評価する際に、相対比較の基準となる指標。

運用収益率の絶対値の高低による評価は、投資環境の違いを反映せず、運用期間が異なる場合に、その比較が不可能である。しかし、投資環境を反映する指標(TOPIX等)があれば、指標に対してどの程度上回る収益率を達成できたかを算出することにより、運用期間の異なるものとの比較が可能。

* NOMURA-BPI総合

野村総合研究所が作成・発表している国内債券市場の指標。国内債券の指標としては代表的なものであり、基金もベンチマークとして採用。

* TOPIX(配当込)

東証一部上場全銘柄の株価を株式数で加重平均して算出したもの。国内株式市場の代表的な指標であり、基金もベンチマークとして採用。

* Citigroup-WGBI(除く日本)(旧SSB-WGBI)

シティグループが作成・発表している世界国債の指標。時価総額につき一定基準を満たす世界の国債について、投資収益率を指数化したもの。外国債券投資の指標としては代表的な存在。基金も外国債券のベンチマークとして採用。

* MSCI-KOKUSAI(配当込)

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社が作成・発表している日本を除く主要国で構成された外国株式指数。対象国の包括性、切り口の多様性等の点で、外国株式投資の指標としては代表的な存在。基金も外国株式のベンチマークとして採用。